

# ピークアウトの数式 I

2012年 1月8日

山本 洋一

初めにいくつかの例

1.  $y = 1/(x^2 + 1)$  最大値 1 の 一般公式使用

上記 導関数

$$y_1 = 100 / \{(x_1/25 - 2)^2 + 1\}$$

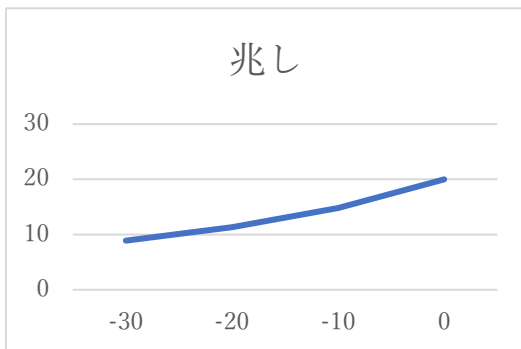
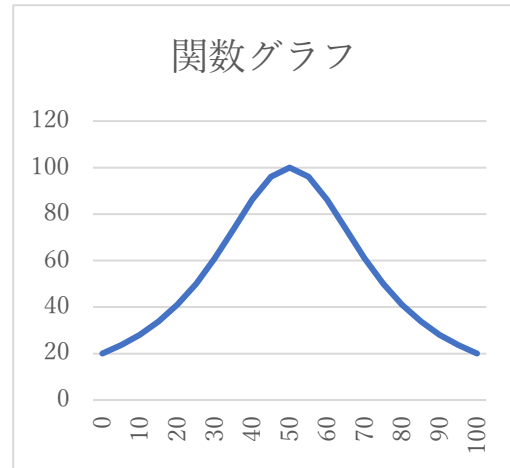
変形

スタートは、(0,20)~

ピーク時(50,100) ~ 終了(100,20)

20 ⇒ 100 ⇒ 20 の順

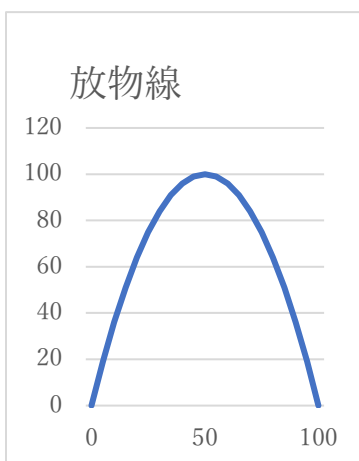
作図は次の通り。⇒



-30 ~ 0 ...

グラフの初期状況

2. 放物線 を使用 一般公式より導関数 ピーク時 100 に設定



放物線のピーク時予想は、よく使用されます。

例えば、トンコレラの発生から終息など一過性の予想などに用いられます。

発生後、急速拡大、ピーク 急落

放物線を描いて終息することがあります。

ピーク時は、発生から丁度 半ば。

上記

2例は 発生からピーク時 ピークアウト 終息 を数値化したものです。